

## 富津市文化財審議会会議録

1 会議の名称	平成 20 年度第 1 回富津市文化財審議会
2 開催日時	平成 20 年 4 月 23 日 (水) 14 時 00 分～15 時 30 分
3 開催場所	富津市役所 5 階 504 会議室
4 審議等事項	別添会議録及び資料のとおり
5 出席者名	審議会委員 野中 徹 小坂一夫 川名 興 高梨 正 藤平裕子 高橋 克 濱名徳順 事務局 渡辺隆二 渡辺眞一郎 吉原賢一 山中正弘 小沢 洋 桐村修司 伊藤伸久 磐井宏江
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	(理由)
8 傍聴人数	0 人 (定員 5 人)
9 所管課	教育部 生涯学習課 文化係 電話 80-1342 (2342)
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

上記会議の顛末を録し相違ないことを証するためにここに署名する。

平成 20 年 5 月 2 日

富津市文化財審議会

会 長 野 中 徹

委 員 高 梨 正

文 化 財 審 議 会 会 議 録

発言者	発言内容
事務局	・あいさつ。
山中生涯学習課長	<p>公私共に何かとお忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。本審議会委員総数 10 名、本日の出席委員 7 名です。従って富津市文化財の保護に関する条例第 27 条第 2 項の規定により会議が成立したことを報告します。</p> <p>ただいまから富津市文化財審議会を開催します。議題に入るまでの間、事務局で会議を進めさせていただきます。吉原部長より開会の言葉を申し上げます。</p>
吉原教育部次長	<p>ただいまより平成 20 年度第 1 回富津市文化財審議会会議を開催いたします。</p>
山中生涯学習課長	<p>次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>委嘱状の交付を行います。教育長が委員席へ参りますのでお一人ずつ自席にてお受け取りください。</p> <p>～委嘱状交付式～</p>
山中生涯学習課長 渡辺教育長	<p>渡辺教育長よりご挨拶申し上げます。</p> <p>お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。昨年度は 100 年振りに内裏塚古墳の発掘が行われました。市内には内裏塚古墳群をはじめとする貴重な文化財が数多く存在します。現在、市教育委員会ではまちづくり交付金事業として、古墳案内人の育成や文化財マップの作成、史跡案内板の設置などを進めているところです。本日は豊富な富津市の文化財の保存と活用について、各委員のご専門の立場から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。</p>
山中生涯学習課長	<p>本日の会議資料について、小沢文化係長より説明させていただきます。</p>
小沢文化係長	<p>それでは本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p> <p>～資料の確認～</p>
山中生涯学習課長	<p>市の公開条例に基づく当会議の公開について、小沢係長よりご説明いたします。</p>
小沢文化係長	<p>～富津市情報公開条例に基づく公開の説明～</p> <p>平成 16 年 4 月 1 日に施行された富津市情報公開条例第 23 条の第 1 項に規定する会議については、情報公開の対象</p>

	<p>となり、本会議もそれに該当します。会議の内容については、会議録を作成し、開催結果を市のホームページ等により周知します。会議録の作成方法については、このあとの会長選出により決定した会長の一任ということによろしいでしょうか？</p> <p>～一同 異議なし～</p>
山中生涯学習課長	<p>それでは会長・副会長が決まるまでの間、渡辺教育長が議長となり進めさせていただきます。</p>
渡辺教育長	<p>次第の4. 会長・副会長の選出について、まず会長の選出を行いたいと思います。どなたかご意見ございませんか？</p>
高梨委員	<p>引き続き野中委員に会長をお願いしたいと思います。</p>
渡辺教育長	<p>ただいま高梨委員から会長は野中委員にとのご推薦がありました。皆様いかがですか？</p> <p>～異議なし～</p> <p>それでは会長は引き続き野中委員にお引き受けいただきたいと思います。</p>
山中生涯学習課長	<p>野中会長ご挨拶をお願いします。</p>
野中委員	<p>よろしくをお願いします。</p> <p>大貫町時代から長きに亘り文化財審議委員を勤めてこられた刈込碩弥先生が、このたびご高齢により引退なされました。そして今回、新たに3名の委員が誕生したのですが、どうかご活躍を期待します。</p>
山中生涯学習課長	<p>それではこれからの議事進行については、富津市文化財保護に関する条例第26条第3項に基づき、野中会長にお願いいたします。</p>
野中会長	<p>副会長はどういたしましょうか？</p>
小坂委員	<p>本日欠席ですが、梶山委員をお願いしたいと思います。</p> <p>～異議なし～</p>
野中会長	<p>それでは本日欠席ですが、梶山委員にお引き受けいただ</p>

<p>山中生涯学習課 長</p>	<p>くということで、委員には私から伝えておきます。</p> <p>本会議の会議録の署名について、どなたかお二方を選任 いただきたいのですが？</p>
<p>野中会長</p>	<p>先ほど会長一任という話がありましたので、野中と高梨 委員の2名にて署名することにします。 では早速本日の議題に入りたいと思います。</p> <p>・議題(1)平成19年度文化財審議会事業報告について</p> <p>事務局より説明願います。</p>
<p>小沢文化係長</p>	<p>それでは資料の2頁をご覧ください。</p> <p>～資料をもとに事務局による説明～</p> <p>第1回目審議会を平成19年5月17日(木)に、市役所5 階502会議室にて開催。議題としては5点。 (1)平成18年度文化財審議会事業報告について (2)平成18年度文化財保護事業報告について (3)平成19年度文化財審議会事業計画について (4)平成19年度文化財保護事業計画について (5)その他</p> <p>第2回目は平成19年7月13日(金)に、市内に所在する 文化財の視察研修を実施。視察箇所は9箇所。 (1)富津市文化財収蔵庫 (2)宮醤油店 (3)岩谷堂や ぐら (4)三柱神社 (5)延命寺・会津藩士の墓 (6)松 翁院・会津藩士の墓 (7)山静堂診療所 (8)円正寺やぐ ら群 (9)竹岡のヒカリモ</p> <p>第3回目は平成19年10月12日(金)に、袖ヶ浦市郷土博 物館にて視察研修を実施。 袖ヶ浦市郷土博物館開館25周年記念特別展「房総と熊 野」の熟覧。展示解説は同館学芸員：桐村久美子氏による。</p> <p>第4回目は平成19年12月7日(金)に、千葉県教育委員 会主催・本市教育委員会協賛で実施した「仏像に出会う旅」 に随行視察。 市内に所在する県指定クラスの仏像を中心にバスでめぐ った。講師は長南文化財修復室の仏師：河本雅史氏 (1)道場寺・木造阿弥陀如来坐像 (2)万福寺・銅造釈 迦如来三尊像 (3)東明寺・木造薬師如来立像、木造十二</p>

神将立像 (4)岩谷堂やぐら (5)岩坂堂・木造虚空蔵菩薩坐像

平成19年度については、全4回のうち3回が視察研修というかたちで実施しております。以上で平成19年度の文化財審議会事業報告を終わります。

野中会長

質問は議題(2)平成19年度文化財保護事業報告説明後に一括して受けたいと思います。

引き続き議題(2)平成19年度文化財保護事業報告について、事務局より説明願います。

小沢文化係長

それでは資料の3～4ページをご覧ください。

～資料をもとに事務局による説明～

○天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業

実施額 2,734,000円

(君津市・富津市の共同事業、総額4,971,000円)

事業概要：①被害防止…既設電気柵の維持管理  
被害多発時期の追上げの実施  
被害実態調査

②生態調査と個体数管理

③環境改変と生息環境調査

事業委託先：天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業調査団

○市内遺跡発掘調査事業(国庫補助事業)

実施額 3,283,000円

実施概要：学術調査に伴う確認調査

内裏塚古墳 6.5/26㎡

(後円部東側墳丘)

百目木古墳 91/4,809.22㎡

(周溝確認調査)

武平塚古墳 75.5/2,165.49㎡

(周溝確認調査)

計3件 173/7,000.71㎡

調査主体 富津市教育委員会

内裏塚古墳については、先ほど教育長の話にもありましたように階段の補修工事に伴う調査です。当古墳としては明治39年以来、約100年振りの調査となりました。調査の結果、古墳の墳丘は高さの3分の2位までは自然の砂丘を

成形して造っているということが明らかとなりました。

百目木古墳と武平塚古墳については、いずれも内裏塚古墳群に属するもので、今回が初の調査となっています。前者は平成18年に新発見された方墳です。調査の結果、墳丘長約9mと、方墳の中では比較的小さな規模のものでしたが、二重周溝であることが判り、外側周溝の外辺では35mありました。後者は墳丘長69m、周溝までを含めると93mの前方後円墳であることが判明しました。

○市内遺跡発掘調査報告書刊行

実施額 371,500円

刊行部数 300部

今年度の調査成果と平成18年度に実施した内裏塚古墳後円部西側周溝調査分も合わせて収録

○民間開発発掘調査事業

実施額 1,970,000円

- ・KDDI(株)携帯電話基地局建設に伴う発掘調査  
東冠1号墳 159.74㎡
- ・東冠1号墳発掘調査報告書刊行 500部

内裏塚古墳群に属する円墳の調査。墳丘は当初から半分程度破壊されていたが、墳丘径28m、周溝径が36mの比較的大型の円墳であり、内部施設に横穴式石室を持っていたことが判明しました。

○文化財周知板設置事業

実施額 75,810円

事業概要：市指定文化財説明板の設置 2か所

- ・大乘寺 織本東岳の墓
- ・光明寺 木造地藏菩薩坐像

いずれも既設のものが劣化したことによる付替えです。

○まちづくり交付金古墳案内人育成支援事業

- ・内裏塚古墳群総覧刊行

実施額 147,000円 刊行部数 100部

ガイドボランティアの古墳群説明マニュアルです。

- ・内裏塚古墳群古墳説明板の設置 1か所

実施額 52,500円 西原古墳

○まちづくり交付金古墳群マップ作成事業

- ・内裏塚古墳群マップ（裏面：富津市文化財マップ）発行

実施額 1,995,000円 発行部数 30,000部

本市としてはこの手のガイドマップは初めてのものです、市の全世帯に配布する予定になっています。

○まちづくり交付金史跡案内板設置事業  
実施額 493,500 円

- ・ 史跡案内板の設置 2 か所
  1. 富津市二間塚字鳥井戸 1589-4  
(市道北笹塚大貫線沿い)
  2. 富津市下飯野字堰田 1342-2  
(県道大貫青堀線沿い)

○内裏塚古墳階段修復工事  
実施額 1,296,750 円  
・ 内裏塚古墳階段修復工事 一式

○内裏塚古墳樹木伐採  
実施額 299,880 円  
・ 内裏塚古墳樹木伐採工事 一式  
内裏塚古墳墳丘部の発掘調査に先立ち実施した環境整備  
です。

○古塚古墳樹木伐採  
実施額 149,625 円  
・ 古塚古墳樹木伐採工事一式  
内裏塚古墳群に属する前方後円墳で、近接する民家に対  
し、倒木被害を出さないために実施したもの。

平成 19 年度の文化財保護事業報告は以上です。

野中会長

ただいま報告を受けた議題(1)・(2)について、質問  
等をお受けします。何かございますか？

ないようなので、次の議題に移ります。

- ・ 議題(3) 平成 20 年度文化財保護事業について

事務局より説明願います。

小沢文化係長

それでは資料の 5 ページをご覧ください。  
～資料をもとに事務局による説明～

○天然記念物「高岩山のサル生息地」のサルによる被害  
防止管理事業  
予算額 2,734,000 円

- 事業内容：①被害防止事業  
②生態調査と個体数管理  
③環境改変と生息環境調査

事業委託先：天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業調査団

○市内遺跡発掘調査事業（国庫補助事業）

予算額 3,300,000 円

実施内容：個人住宅建設等に伴う確認調査  
300/3,000 m<sup>2</sup>

重要遺跡範囲確認調査

調査主体 富津市教育委員会

○民間開発発掘調査事業（事業者負担分）

予算額 16,400,000 円

事業内容：各種民間開発事業に伴う確認・本調査  
250/2,500 m<sup>2</sup>（確認）  
2,500 m<sup>2</sup>（本調査）

調査主体：富津市教育委員会

○まちづくり交付金関係発掘調査事業（まちづくり交付金事業）

予算額 約 2,800,000 円

事業内容：都市計画道路建設事業に伴う確認・本調査  
・市道青堀駅東口1号線  
・市道二間塚汐入線

○文化財周知板設置事業

予算額 76,000 円

事業内容：既設の指定文化財説明板の老朽化に伴う付替え並びに新規指定物件の周知板の設置 2か所（場所は未定）

○市文化財整備事業

予算額 380,000 円

事業内容：内裏塚古墳墳丘部樹木伐採  
飯野陣屋濠跡草刈及び樹木伐採

○史跡案内板設置事業（まちづくり交付金事業）

予算額 2,800,000 円

事業内容：内裏塚古墳道路標識（イオン富津付近）  
内裏塚古墳群情報板（青堀駅前）

青堀駅前に設置予定の写真等を多用した情報板については、今年度は原図を作成するまでの事業になります。



	<p>○古墳案内人育成支援事業（まちづくり交付金事業）          予算額 200,000 円          事業内容：古墳群ガイドボランティアの育成          講習用教材作成</p> <p>今現在、20 名が登録している古墳ガイドボランティアの講習用教材です。</p> <p>以上が平成 20 年度の文化財保護事業です。</p>
野中会長	<p>ただいま説明を受けた議題（3）について、質問等をお受けします。何かございますか？</p>
小坂委員	<p>お茶・紅茶の関係で功績のあった多田元吉の資料を事務局に提出しているが、その後どうなっているか？ 進捗状況も含めてお聞きしたい。</p>
小沢文化係長	<p>今年度の文化財審議会でも指定候補物件の検討を予定していますので、その中で取り上げてみてはと考えています。</p>
野中会長	<p>今の質問に関連して私からも一言。静岡県には多田元吉を顕彰し、立派な碑も建てられているようである。活躍したのは実際には静岡なのかもしれないが、やはり富津出身の一偉人には変わりない。「生誕の地」として顕彰しなければならないと考える。</p>
高梨委員	<p>内裏塚古墳群の周知板や案内板についてであるが、ここ数年でかなり整備されてきており、私自身、見学者を案内していても、とても見て回りやすく、また判り易くなってきているのが実感できる。事務局をはじめ、関係者の方々のご尽力には感謝している。今年度も関係予算がつけられているようであるが、今後も継続し、さらに充実したものとなるようお願いしたい。</p>
野中会長	<p>市としては今後も継続して同様な予算を確保しながら、市内の文化財の整備、有効活用にあたっていくのか？</p>
小沢文化係長	<p>この事業は青堀駅周辺におけるまちづくり交付金事業の一環として組まれたものです。この補助金の交付が終了すれば、一応、完結というかたちになります。</p>
野中会長	<p>今回作成した古墳群マップは大変良くできたものとして評価したい。過去、『富津市の文化財』や『富津市のあゆみ』と題した冊子が教育委員会から刊行されたが、既に残部が</p>

<p>小沢文化係長</p>	<p>なしとのこと。その後、新指定の文化財等もあるので、何とか改訂版なり作成されることを希望する。</p>
<p>高梨委員</p>	<p>その件については、このまちづくり交付金事業の中で、平成 22 年度に文化財ガイドブックを作成する予定となっていますので、また委員の皆様方のご意見をいただきたいと思えます。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>内裏塚古墳群のことで言い忘れたが、実際この古墳群を回っていて感じることは、交通量が多い割に道路には歩道もなく、あるいは道幅が狭いなど、非常に歩きにくいということ。安全面で少し気になる箇所がみられるので、そのあたりも整備したらいかかと思う。</p>
<p>小沢文化係長</p>	<p>昨年度の事業報告や今年度の事業計画にもあるように、発掘調査はほぼ毎年実施している様子。調査によって貴重な遺物等も出土しているはずである。それらを小学校の授業で使用してみたり、そういう計画は事務局では立てられないのか？ やはり文化財の活用といったことを考えると、まだまだ保護事業の中からは漏れてしまっているように思える。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>文化財の活用という面では、昨年度、天羽高校の開放講座で、市民の方々を対象にした古墳めぐりを実施しています。また、市民会館の歴史探訪講座でも最近の発掘調査成果として発表しています。さらに小学校の関係では、飯野小学校の出前授業として古墳をみて歩くということをやっています。</p>
<p>藤平委員</p>	<p>今以上に市民に還元していくという方法をもっとアピールしていただきたい。</p>
<p>高梨委員</p>	<p>話は戻ってしまうが、先ほど古墳群マップは市内の全世帯に配布との説明を受けたが、市外の方へ配布する予定はあるのか？</p>
<p>小沢文化係長</p>	<p>関係機関等へ配布する他、市外の方でも希望者には配布していく予定です。</p>
<p>高梨委員</p>	<p>高宕山のサルに関してお聞きしたい。実際、被害防止に重点をおいて事業に取り組んでいるようであるが、天然記念物の指定地のサルと、そこに住む人々との共存はどうなっているのか？ うまくできているのか？</p>

<p>磐井主事</p>	<p>市では地元の方や有識者、君津・富津両市等で構成するサル被害防止管理委員会を設置しています。毎年、サル被害防止管理事業調査団に事業を委託しながら、サルの被害防止に努めていますが、やはりサルによる人的被害や、作物の被害等、食止めることはできません。今後、指定地や千葉県自然保護課の設定した保護エリアの見直し等も含め、検討している状況です。</p>
<p>山中生涯学習課長</p>	<p>千葉県自然保護課の設定した範囲内では、サルを捕まえることができないことになっています。当然のことながらその中には人家等も含まれているため、なおさら被害は止みません。設定範囲から民家等を外すように、現在、君津・富津両市長名で県へ要望しているところです。ただし県の考え方としては、設定してからまだ日が浅いため、なかなか直ぐには対応できないとの報告を受けています。</p>
<p>野中会長</p>	<p>ここで登録文化財の件で一つ話をしておきたい。富津市の梨沢地区にはまだ蔵が多く残っている。市内から次々と蔵がなくなっている昨今、あの地区を蔵群として登録できないものだろうか？ 中には立派な石蔵もあるようである。機をみて調査等ができればと思う。</p> <p>他になにかございませんか？ ないようなので、次の議題に移ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題（４）平成 20 年度文化財審議会事業計画について</li> </ul> <p>事務局より説明願います。</p>
<p>小沢文化係長</p>	<p>それでは資料の 7 ページをご覧ください。 この計画については、審議委員の皆さんの話し合いで決めていただければ良いと思います。 ～資料をもとに事務局による説明～</p> <p>第 1 回の審議会は本日開催しています。 （１）平成 19 年度文化財審議会事業報告について （２）平成 19 年度文化財保護事業報告について （３）平成 20 年度文化財審議会事業計画について （４）平成 20 年度文化財保護事業計画について</p> <p>第 2 回以降の予定については、一応事務局の方で案をだしてあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・君津地方の仏像について</li> </ul>

今年度から新たに委員に加わった濱名氏が仏像のご専門であるということから、「君津地方の仏像」のようなテーマで研修ができたらと思い、第2回目の審議会にあげてあります。とくに湊・東明寺の十二神将像や鶴岡・光明寺の釈迦三尊像など、いくつか懸案事項もございますので、これらを中心に見直してみたいかと思っております。

・富津市内の幕末遺跡について

富津陣屋や砲台跡、また会津藩士の墓をはじめとする幕末の海防に務めた藩士の墓など、幕末から明治にかけての遺跡で近年意外と脚光を浴びているものもありますので、一度採り上げてみたらと思っております。

また、先ほど小坂委員からもありましたように、多田元吉の件など、指定候補物件について今一度検討してみたいかと思っております。

・第一海堡・第二海堡の取扱いについて

今回、作成した文化財マップにも写真を掲載してよいか等、所有者である財務省（千葉財務事務所）や海上保安庁に問い合わせたのですが、良い返事をいただくことができず、結局載せることができませんでした。その後、千葉財務事務所からは、富津市で今後、第二海堡を管理していくつもりはないか等、話し合う機会がありましたので、その辺も含めて、第一海堡・第二海堡の取扱いについて採り上げられればと思っております。

・寺社建築の悉皆調査について

千葉県教育委員会が平成20年度以降、県内の寺社建築についての悉皆的な調査を行う予定であるとのことを受け、これに先立ち、市としても市内の寺社建築について、悉皆的な調査を実施してみたいかと思っております。

以上、第2回は一つのテーマにこだわらず、皆さんに意見を出していただきながら、市内の文化財をもう一度見直すというかたちで進めてみてはと考えました。

第3回の審議会は、博物館の特別展や企画展を見学してみたいかと思っております。また、富津市内の城郭について視察してみたらどうかということであげてあります。

第4回については、例年どおり事業報告と次年度の事業計画というかたちで入れてあります。

以上、事務局（案）というかたちで挙げさせていただき

野中会長	<p>ましたので、委員の皆様でご検討いただければと思います。</p> <p>ただいま事務局から提案がありました。いかがですか？</p>
小坂委員	<p>第一海堡の扱いがとくに厳しくなっているようである。昨年8月に見に行ったところ、新たに10か所の立入り禁止の看板が現地に立てられていた。まだまだ財務省も上陸については頑なに考えを崩してはいない。第二海堡については、3か年計画で工事を行う計画も聞いており、県議会の一般質問でも採り上げてくれたことがあった。やはり、第一海堡・第二海堡を含めての取扱いについて、審議する場は必要だと考える。</p>
野中会長	<p>これについては政治的な面も含め、いろいろと大きな問題がある。市としてどのように向き合っていけば良いのか、真剣に考えなければならぬ時期に来ているのであろう。</p>
高梨委員	<p>濱名先生が新メンバーに加わったこともあり、仏像について検討する場は是非設けていただきたい。</p>
小沢文化係長	<p>19年度にも検討しましたが、湊・岩谷堂やぐらや不入斗・円正寺やぐらの扱いについて。とくに円正寺やぐらの構築時期については、古く見る人はあれを鎌倉時代の所産とし、逆に新しく見る人は江戸時代の所産とするなど、なかなか評価が定まらないところでもあります。一度、濱名委員の意見をいただけたらと思います。</p>
濱名委員	<p>この地域の仏像は、千葉県史の調査で見える機会があったので実見しているが、中でも強く興味を持っているのは東明寺の十二神将と、光明寺の釈迦三尊像である。市指定になっている光明寺の仏像については、市の方では室町期の造像であるとしているようだが、構造からみても鎌倉期の始め、それがどのあたりまで上がるのかは難しいが、運慶様はストレートに出ているので13世紀の初期か、下がっても13世紀の前半あたりに落ち着くのではないかとみている。脇侍も同時期のものとするか？は非常に難しいところではあるのだが。鎌倉期の初めの仏像というのは県内でも稀少であるし、鎌倉の新風を房総を感じる仏像としては、光明寺のお像はその代表的なものとして、なかなか名作ではないのかなという気がする。東明寺の十二神将についても、鎌倉期の前半、初期の頃のもので間違いはないと思う。三浦半島のもので非常に作風も近いところが見受けられるし、あちらも慶派の作で間違いはないと思う。もちろん県内では一番優秀な最古のものといえるだろう。どちらも県</p>

文クラスの仏像だろうと思っている。

さらに、もう一つ興味をもっているお像がある。鶴岡の八幡社の本地仏であったといわれている円鏡寺の阿弥陀如来坐像である。法衣垂下式という、鎌倉地方でしか製作されていないタイプのお像なので、中世のそんなに古い時期のものではないと思うが、おそらく南北朝期頃の鎌倉仏師による製作であろうとみている。まだ詳細な調査はしていないが、このような機会があった時に、調べさせてもらえたらと思う。

湊の岩谷堂磨崖仏については、一度拝見したことはあるが、とにかく磨耗が進んでいて、とても年代を様式からは判断できないし、非常に難しいところである。いくつか類例を見ていく中で判断していかなければならないと思うが。ただ東明寺の十二神将などは、神奈川の三浦半島のお像と非常にオーバーラップするところがあるので、中世のやぐら系文化などの中から捉えていくしかないであろう。

小沢文化係長

円鏡寺と同住職が兼務する像法寺の船乗観音などはどう見ますか？

濱名委員

おそらく江戸時代のお像であろう。しかも元々、観音像として造られたようには私には思えない。

野中会長

ではいかがですか。ただいま濱名委員の説明にもあったように、市指定の仏像の再調査も兼ね、市内のいくつかの仏像を見て回るという機会にしましょう。第2回の審議会については、事務局と濱名委員とで中身を練ってもらい、市内の仏像について扱うことにします。

第3回についてはどうしますか？

(案)にあるように城郭にするか、あるいは博物館の展覧会を視察するか？

ではこの時期に博物館でどのような催し物があるのか等、調べてみて、第2回の時に決めることにしましょう。

第4回はこの(案)どおりでよろしいですか？

あるいはこの辺で指定候補の集大成のようなものを行うことにするか？

では委員の皆さんには何かありましたら事務局へ提案しておいてください。

6. その他について、何かございますか？

<p>磐井主事</p>	<p>皆様のお手元にお配りしましたチラシについてご説明いたします。これは市指定文化財の鶴岡の羯鼓舞についての案内です。今年度、三菱UFJ信託地域文化財団の助成を受けて開催することになりましたので、ここでお知らせいたします。</p>
<p>山中生涯学習課長</p>	<p>市内のいくつかの団体へ打診したところ、鶴岡の羯鼓舞保存会が名乗りを挙げ、財団に採択されたものです。助成金額は30万円とのことです。</p>
<p>高梨委員</p>	<p>佐貫の慈眼寺にある市指定文化財の石仏龕であるが、近年かなり風化が進んでいるようである。覆屋を設けるなり、何らかの措置が必要なのではないだろうか。現状のように風雨に曝されたままにしておけば、やがては溶けてなくなってしまふのでは、と危惧している。保存が難しいものをどのように残していくか？ 一つ大きな課題ではないだろうか。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>なかなか難しい問題だと思う。信仰の対象となっているものには簡単に覆屋を架けることはできないだろうし、あの場所から動かすこともできない。どこまでの姿で後世に残していくのかという選定になる。逆に覆屋を架けたら架けたで、今まで風雨に曝されてきたものが、環境が変わったことで乾燥し、逆にヒビが生じてしまうなどといった新たな問題が出てくるとも考えられる。乾燥にどれだけ耐えられるのか、といった問題である。</p>
<p>濱名委員</p>	<p>職業柄、山武地域の墓地にはよく出かけるのだが、そこで中近世の石造物をよく目する機会がある。それらが何故今日まで残っているのかを考えると、山武地域では山の上に墓地が造られていることが多い。その場合、周囲に椎の木などが生い茂っていたことにより、逆に風雨から守られてきたのだといえるだろう。ところが最近、墓地を綺麗に整備するようになったことで、今までせつかく落葉などで覆われていたものが、周りを綺麗にし、日に当たるような環境に作り変えてしまった途端、危機的な状況に晒されてしまっているというものが少なくない。ある程度、悪い状態の中で悪いなりに安定して保っていたものが、かえって綺麗にしようとしたことで、逆に悪くなってしまう。今まで木に覆われて何百年と保ってきたものが、文化財指定にしようとして周辺を整備してしまったがために、途端に悪くなってしまうというようなことが石造物などではいえるのではないだろうか。山武地区では戦国時代頃まで遡るような墓地が今日まで現役で役割を果たしてきたのであ</p>

	<p>ろうが、おそらくここ数年でなくなってしまうのではと危惧している。</p>
野中会長	<p>いろいろと出たようですが、他に何かありますか？ ないようですので、事務局へお返しする。</p>
吉原教育部次長	<p>慎重なご審議ありがとうございました。いただきました貴重なご意見は、今後の文化財行政で活かしていきたいと思えます。以上をもちまして平成 20 年度第 1 回富津市文化財審議会会議を閉会いたします。</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p>